

平成28年度 第2回逗子市地域福祉計画・逗子市地域福祉活動計画懇話会概要

日時 2016年(平成28年)10月19日(水)

午前10時から

場所 市庁舎5階 第5会議室

議題

- (1) 各地域・団体等の現状にかかる意見交換（①担い手の育成、②活動の周知について）、検討事項（③専門機関との連携）
- (2) その他

意見概要

●新たな担い手の育成、活動の周知・発信について

- ・小坪小学校区住民自治協議会の役員について、来年4月に改選期を迎えるが、新しい方を探すのに大変苦勞している。現状は70歳前半～後半にかけての方が中心となっている。
- ・沼間小学校区で0円食堂が始まり、回を重ねるごとに参加者が、子どもだけでなく大人も増えている。そういった地域の子どもと、それを支える地域のボランティアの、ニーズと担い手の調整がなされるような仕組みができるとよい。
- ・池子小学校区では、役員の担い手育成のため、PTAの方からお1人事務局員という形でお願いし、1年目は主にその役職を担い、2年目は新規役員のフォローに回るというスタンスで2年制を敷き、初めての方でも臆せず活動できるシステムを整えた。
- ・仕事をリタイアした人の情報をすぐキャッチして、盛んにアプローチし、山の根お互いさま活動などの仲間に加わっていただくと、そのような方々はその後、自然な流れで自治会役員になるような状態となっている。また、住民協で何をなすかということについて、良いアイデアが挙げられた場合、地域の様々な組織や団体からメンバーをスカウトしてメンバーになっていただき、事業を展開することも考えられる。
- ・子育て世代と高齢者世代を福祉の対象として注目しなければいけないと考える。子育て世帯の支援については、行政がシステムとして充実をして、総括的にサポートしていかないと厳しいが、高齢者世帯の支援については、ご近所で心をそちらに傾ければ、何らかのサポートができる。人材の問題については、そういった実際の日頃の活動の中で、ご協力いただける方を探していくしかない。
- ・今後は、行政に頼らなければいけない部分と、地域のボランティアに委ねる部分を、具体的にひとつひとつ議論し、クリアにしていかなないと、なかなか進展しないと考える。
- ・若い人は、防災訓練などには関心を持って参加してくれるため、いつも土日に開催する

よう計画している。その際、色々なことを話し合っ、地域の担い手になろうかという気持ちが生えてくれればと願っている。

- ・ 逗子災害ボランティアネットワークは、自主的に、やりたいという人が、会費を払って活動している。メンバーは住民協や自治会長さん等、地域で活動していらっしゃる方々。したがって、住民協等で担い手の方がいないと、災ボラの活動も必然的に小さくなってくだろう。
- ・ 新たな担い手というと、どうしても若い方を想定するが、今まで参加されていない方たちが入ってくるということも大切である。災害は世代関係なく皆にかかわる問題であるので、自分たちの世代で何ができるのかということは、それぞれ関心があるだろう。
- ・ 皆さんが地域で何をやられているか、何をお考えかということ、懇話会の場を出していただき、具体的なものをひとつひとつ拾い上げながら、皆で考えるということが必要ではないか。
- ・ 逗子地区の場合、人口が1万7,000人位になるため、自治会によっては一つにまとまる形で活動した方が良いというご意見もある。したがって、今のところは、コンパクトに自分たちの地域で何をしたら良いか、それに共鳴してくれる心ある人を見つけて、活動していくのがベターである、と考えている。
- ・ 子育て関連施設が以前より充実し、自分から何か行動を起こさなくてもそこに行けば子どもを遊ばせられるという環境になっているため、育児サークルはかなり数が減っている。しかし、子どもが小さいうちから地域のイベント等に触れる若いお母さんたちをもう少し増やすべきと考える。何か町内会で若い人を取り込むようなイベントが少しでもあれば、そこから防災訓練などに繋がり、将来担い手に手を挙げてくれる方が増えるのではないか。
- ・ 0円食堂を例に考えると、子どもを支える人がいて、参加する人がいて、それをサポートできる人がまた生まれる…といったように、親と子の関係というよりも、地域の誰かが出来るようにするという考えを持つほうが、今後地域の課題を解決していく中で、一見古い考え方に感じるが、より今の時代に合っているのではないか。
- ・ 地域の人が、地元でどういう活動があるのか知らないという現状がある。0円食堂も活動が活発になってきており、今後この活動がより増えて欲しいと思うけれども、チラシの配布や掲示板を利用して参加者がなかなか増えないため、苦慮している。
- ・ ズシップでは3か月に1回広報誌を発行しているが、60歳代の方の参加は少ない。自治会の行事に参加して色々と情報交換をし、繋がりが深められたらと考えている。
- ・ 民生委員についても地域の状況と同様、担い手が少なく、欠員地区となっているところがたくさんある。現在の日本の社会的状況から、若い方に担い手となってもらえることは容易ではないが、自治会、各種団体、民生委員等、様々な団体の方々が連携することによって、その中から担い手が出てくるような仕組みづくりをしていく必要があるのではないか。

- ・地域の課題をどう捉え、どのように今後に向けて行っていくのかということについては、様々なやり方があり、答は一つではない。しかし、新たな担い手の発掘の前に、まず各地域において、それぞれの年代の方々が抱える課題や、暮らしにくさを認識することが一つの手法といえるのではないか。
- ・災害の問題になると、近所つき合いのつながりはとても強くなると思うので、地域の防災という視点が、きっかけづくりの一つであっても良いのではないか。
- ・みなさんのご意見を伺うと、それぞれ地域の状況が違い、アプローチの仕方も異なるが、子どもや高齢者等を取り巻く状況の変化に即した活動をされていると感じた。この懇話会においても、各地域の状況を共有化していくことが必要だと思うし、各メンバーの方が活動されている地域の中だけでも、この情報を周知していくことが重要ではないか。

●専門機関との連携について

- ・介護を取り巻く状況の変化として、介護保険はだんだん重度の方へとシフトするような話になってきているが、それをどう在宅の介護で支えるのかという課題が突きつけられている。一方で、介護に従事する方の平均年齢が50歳半ばとなっており、今後10年、15年後にどれくらい介護の専門職が地域にいるのか、ということも課題となっている。
- ・利用者の方がデイサービスなどを利用していない時間帯に、どんなことが地域で起きているのかということが、専門機関側にはなかなか見えていない。例えば、地域の方が見守っている方に緊急な状態が起きて、地域の方がどうしたらいいのか対応に困っている場合、事業所とどのような連携を取らせていただきたいか、伺いたい。
- ・当事者のご家族だけではなく、見守り活動の中で、地域の方々が介護というものに対してどのような不安や悩みを持っているのか、事業者として分かっていない面もあるように感じている。地域の皆さんに、そういうことをお話しさせていただける機会があれば、地域とのつながりづくりの一つのきっかけになるように思う。
- ・自身の経験から、ちょっとした内容でデイサービスの方を呼ぶことはなかなかしにくかった。やはり、いつでも助けてくれる、思いやりのある人が、地域にいなければ、専門職の方と地域住民との細やかなタイアップができない。
- ・全国的にも、地域（インフォーマル）との連携はまだ十分に取れていないと言われているが、やはり地域でどのような社会資源があるのかということ、事業者の立場としてまだ知らないことも多いと感じている。
- ・軽度の方は地域へという流れは、困難性の高いことではあるが、時代の流れから致し方ないと考えている。
- ・介護人材も不足していく中、健康な状態をどれだけ延ばしてもらおうかということが、非常に重要になる。今回の制度改正によって、本当に必要な人に必要なサービス（介護保険のサービス、地域の助け合いのサービスを含め）をどういうふうに振り分けていくのかということは、介護保険事業所だけで議論している時代ではないのではないかと感じる。

じている。また、その仕組みは一つに統一できるものではなく、地域によって様々なやり方を考えていく必要があるのではないかと考えている。

- ・福祉の問題は、一般市民にとっては、まだ身近であるけれども遠い存在である。実際には、事業者の方と一般市民の間には、かなりギャップがあるため、お互いに問題点を話し合わない、噛みあわない部分があるのではないかと。
- ・行政、事業者、地域住民が、それぞれできること、できないことをリストアップすることで、問題点がよりフォーカスされるのではないかと。
- ・自身の経験から、介護者が遠方に居住していると、情報が全く入ってこなかった。制度が移行していく中、明確なシステムが誰にでも手に取るように分かると良い。
- ・以前は、介護保険事業所ができないことを表に出すことが、ためらわれるような感じできていた。しかし、事業所も介護に関して全てをオールマイティにやれるわけではないということ、地域と分かり合えるような場があると良いと感じた。
- ・今後、各市町村での独自のスタイルができてくると、ますます離れた介護者の情報が伝わりにくくなるのが想定されるので、介護をされているご家族がいる地域の包括支援センターと、実際にご本人と関わっているケアマネジャーの方が連携をとれるような流れを作る必要があると感じている。
- ・地域のお互いさま活動などは、現時点ではかなり完璧な活動となっている。しかし、実際に地域をよく見ると、もっと困った人がたくさんいるのに、平和な雰囲気で行ってしまっているのではないかと危惧している。何か重大なことが起こった場合、地域が主体となったシステムができていないと、大変なことが起こるのではないかと考えている。
- ・危機感を感じている方のほうが少ないのが現実。しかし、そのような状況が訪れることもあるということ、日常の中でいかに皆で共有できるか、ということが担い手の話にも繋がってくる。それぞれの立場で、今出来ることと、これからやがて出来なくなること、今出来ないけれども、もしかしたら今後出来るかもしれないということを含めて、整理することがとても重要である。